

令和2年度 第1回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日時 令和2年6月30日（火）

午前10時～

Web会議システム（zoom）にて実施

1 開会

事務局より配布資料の確認、欠席者の報告
委員全員より、近況報告及びご挨拶
まちづくりセンターの会館状況について説明

2 議題

(1) 令和元年度実施事業について

○事務局より令和元年度助成金事業、モデル事業について報告

- ・助成金事業は、2団体とも今後も活動を広げていってほしい。また、応援もしていきたい。
- ・モデル事業については、国土交通省がコロナ禍を考慮し大きな規制緩和を進めている。特に飲食店、物販などは道路空間でテラスやテントを設置し、開設することができる。今後、国としても道路を使った取り組みに良い印象を抱けば、一般化することも視野に入れているようだ。
 - 昨年度最後のモデル事業開催日が中止となってしまったことは残念である。
 - 団体も昨年度の活動の経験から、コロナ禍だからこそ活かすことができるものがあると思う。アイデアやヒントを大事にしていきたい。
 - モデル事業も、地域の総代たちは続けていきたいと意欲はある。
昨年メインで動いてくれた総代が、今年新しい方に交代となってしまった。ただ、今年もサポート役として、動いてくださるそうだ。
 - 中止になったから終わりという訳ではなく、「どんな形であれば実施できるのか」という視点を持つことが大事。
- ・お年寄りが自粛で家にこもってしまっているためか、畑作業にはコロナ禍以前より多くの方が参加してくれている。人と会いたいという気持ちから出てきてくれるのだと思う。
- ・自粛中でできることってということで、ドライブスルーのお弁当販売を実施した。そういった活動の中で一番大事なのは、あらゆるところと連携するということ。今回たくさんの方が困っているということもあり、初めて繋がることができた人がいた。
- ・安城のデンパークで移動販売車が来場し、駅前のアンフォーレという情報交流館でお弁当販売が開始された。飲食はたくさんの方の興味があるところなので、販売者や警備など多くの方でコラボできる分野だと思う。
 - 国土交通省の規制緩和については、国と警察が事前協議をして“やっていくんだ！”という意思がみえる。ただし、今回の緩和については、佐賀や浜松、仙台など地域

が先行して取り組んだことに対し、国がバックアップをする形で進んでいったもの。そういった例もあるので、この時期だからこそチャレンジできることがあると思う

(2) 令和2年度まちづくり事業について

○事務局より令和2年度まちづくり事業について説明

- ・若者は今回のコロナウイルスで、オンラインを経験せざるを得ない状況になった。そのため、事業としてはオンラインで取り組めることを若者も巻き込みながら模索し、最後に全員対面でなにかやる、というハイブリットな内容でもよいと思う。
 - 今の時期だからこそ、完成形ではない実験的にトライする事業でもよいと感じる。
 - Youtubeなども活用しながら、新しい事業に取り組んでもよい。
 - 若者がまちづくりに参加するには、環境整備が大切。それには、オンラインというツールであれば参加のハードルが下がると思う。また、成功体験を積み重ねるようなプログラムであればよい。
 - SNSでの発信が有効と感じる。ただし、課題もあり登録者が全く増えない。発信することも大事だが、より広い範囲に伝える方法を検討する必要がある。
- ・ファシリテーターは資格などあるのか？
 - 現状資格などはない。ただし、地域の中で話し合いを行うことが増えてくるといった現状を踏まえると、行政と住民の間あるいは住民と住民の間に誰か入ることで、議論が進むことがある。例えば、なかなか意見をいうことが出来ない人の意見をどのように引き出すかなど。
 - 会議の進行において、うまい方またそうでない方、どちらもいる。
- ・オンラインが便利なのは理解しているが、新しいことを取り入れるのを拒みがちな人もいる。そういった人も取り残さずに、参加できたら良いと思う。
 - 今まで、オンラインに触れてこなかった人たちからすると、今回が取り組み始めるいい機会になっているかもしれない。実際やってみると思っていたより大変ではないと感じるのではないか。
 - 今まで地域の会合など時間的な制約で参加できなかった人が、オンラインを使うことで参加できるかもしれない。
 - 高齢者の方も興味を持って参加してらえると、オンラインも利用しやすくなると思う。
 - いつもの会議よりも、オンラインだと気楽に話すことができる面もある。
 - 学生の授業でオンラインを使っているが、みんなの前ではしゃべれないがパソコンの前だとしゃべれるという子もいる。学生間の最初の顔合わせが、オンラインだと以降のつながりを作りやすいというのはあるかもしれない。
 - まちに対するいい意見を持っている方はたくさんいる。ただし、日中の会議だと仕事の関係で参加できない人が多い。そういった例もある。
- ・賞金付きのコンテストを実施するとよい。市民発案の事業があってもよいと思う。
 - 最新の技術を地域で活用できるとよいと感じる。
 - まちづくりに若者がどんどん参加してほしい。

→コンテストについても、フィジカルディスタンスを開けた中でなにができるのかを競うコンテストが実際にある。また若者に考えてもらうようなコンテストにし、賞品を出してもよいと思う。

→多世代に参加者を募りたいのに、若者が得意なオンラインのネットワークだけに呼びかけるのは違う。異なるアプローチをすることで、多くの人を巻き込むことができる。

(3) 助成金応募状況について

○事務局より助成金応募状況について説明

- ・助成金の枠新設について説明。コロナ禍での助成について、半田市の事例を紹介。
→先行きが見えない中で、取り組めることが限られている。応募を躊躇してしまう。できるタイミングで、できそうなことを実験的にやるものでよい。
- ・新城市で軽トラ市を今まで通り開催する。今までは多くの参加者を呼ぶということが目標であったが、考え方を変え、どうすれば実施できるのかを検討し、実際にやってみるという点を目標として設定している。
→行政側も、実験ということで後押しをした。現状の規制を緩和に導く実験は、どこかで必要になってくると思う。
- ・第二層協議体で「地域にとって必要なことはなにか？」というテーマで話し合いをしているが、意見が出ない。
→駅前についても、お年寄りがちょっと座るイスがないと感じる。各自でイスを作るという内容であれば、ウイルスは関係ないのではないか。
- ・コロナになってしまっ、現状の活動は以前の活動と同様に実施はできないというのがあたり前になってきている。以前の活動にプラスアルファを考慮し、内容を加えていく必要がある。
→今まで、外に出て集まっていた人たちの居場所も変化してきていると思う。実際に会って会話することが必要なのか、それともリモートで会話できればよいのか。
- ・オンラインに対しアレルギーを感じている高齢の方に、オンラインラジオ体操やオンラインヨガなどまずは実際体験してもらえよう活動が、このコロナ対策の助成金に申請してきてくれるとよい。
→豊中市の社協が Youtuber としていろいろな情報を動画配信しているデジタルな行いを実施している一方で、直接会うことができないので手紙を送信することで、返信をいただくといったアナログなことも同時にやっている。忘れていたことをやってみるといったことも、今だから生まれること。
- ・助成金の周知方法を少し見直して、制度自体を知ってもらうようにした方がいい。
→飲食店自体がコロナ禍で厳しいが、なにも取り組まないという訳にはいかない。そこで、飲食店組合で出た意見が、組合内の店舗で取り組んでいるコロナ対策について、市民にもっと知ってもらったらどうかというもの。動画作成し、Youtube にアップする。
→半田市の助成金もよい制度だと思う。蒲郡市で実施する際にも、市民への周知を工

夫し活用してもらえようようにしてほしい。

→「こんなことをやっている」という内容を伝えるものでよい。

→折角の助成金なので、幅広い団体に活用してほしい。

→やれることは限られているが、半田市は助成金を用いて、まちづくりへの興味を高めている。現に、蒲郡市でもなにか取り組みたいと考えている人は増えていると思う。ただ、なにをやっているのか分からない人も多い。そういった人を巻き込んでいけると、幅広い取り組みに繋がるのではないか。

- ・半田市も、感染予防に注力するという活動よりも、コロナ禍だからこそできる活動を掘り起こせるとよかった。また、市民・行政がお互いに協力しながら、事業を実施しますといった内容の方がよかった。単に、活動を応援というだけでなく、一緒にチャレンジしていくといったものの方がよかった。

- ・市民から感じるのは、みなさんしっかりと人と接するのを控えてくれているということ。それも大事だが、注意をしながら人と接することが必要。今回の助成金新設も、コロナ禍だからこそできる事業であり、これをきっかけに考え方を変えるきっかけになり得ると感じる。

→コロナの後を見据えた事業もよいと思う。

→スピード感を持って、助成金を支給していきたい。

(4) 新しいまちづくり指針の作成について

○事務局より新しいまちづくり指針の作成について説明

平成 17 年に指針が発表され、指針に基づきまちづくりを推進してきた。平成 27 年に、進捗状況を見直し、市長への提言を行った。

令和 3 年度に、新しいまちづくりの指針を完成するためのスケジュールを説明。

3 その他

- ・事務局より次回日程を提案

8月26日(水) 時間・会場は未決定